

会 議 録

会 議 名	第4回辰野町立小・中学校あり方検討委員会
開 催 日 時	令和6年10月4日（金曜日） 午後6時30分～午後8時00分
場 所	辰野町民会館 大会議室
出 席 者	出席者 委員17名中12名、教育委員4名、事務局4名
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 教育長あいさつ 3. 委員長挨拶 4. 協議事項 5. その他 6. 閉会
会 議 結 果	<ol style="list-style-type: none"> 4. 協議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 前回までの経過と協議の方向性 事務局より説明。「辰野町立小・中学校あり方検討委員会の経過と協議の方向性」について、資料に基づいて説明。 (2) 「これからの時代にふさわしい辰野町の学校のあり方」をテーマに「少子化の進展に対応した新たな学校～学校を集約するにあたってのメリット、課題等～」を着眼点に、「前回のグループ討議の論点整理」をもとにして、3グループに分かれてグループ討議を行い、記録係がグループごとの検討内容等を発表。 5. その他 次回の委員会は11月下旬に開催の予定。
発 言 者	発言の内容
教 育 長	<p>2. 教育長あいさつ</p> <p>今日は大変お忙しい中第4回あり方検討委員会にお集まりいただきまして大変ありがとうございます。</p> <p>前回から約3ヶ月が経過いたしました。過去2回のワークショップにおいて、これからの時代に対応した学校のあり方、辰野町の特色を生かした学校のあり方、これは地域との連携など今後直面する少子化社会に対応した辰野町の学校のあり方について様々なご意見をいただきました。</p> <p>それを受けて今日第4回目ということになります。ここで再確認させていただきたいことは、この検討委員会の目的でもあり、前回も話をさせていただきましたけれど、明日を担う子供たちにとっての学校教育、これは少子化が進んでも充実した教育環境は維持されていかなければならないということ。二つ目は常に語り合える友だち、学び合える友だちが隣にいないといけない。子どもたちにとって、学校は明日への希望、期待が持てるものでなければいけないということ。そのために子どもたちも、また町民もそうですけれども、子どもの数が急激に減っていくと、例えば、仕方なく各学校を閉じなければいけないとか、やむを得ず学校同士を統合しなければいけないとか、こういうふうな状況では、切なさだとか、あるいは悲愴感というものが、どうしても出てきてしまうわけですけど、そうではなくて、集約を</p>

	<p>していく、統合していくにしても、ここで新たな学びの学校、集約して新しくできた学校というのは希望が持てる学校なんだ、新しい学びができるんだ、明るい明日につながるんだ、そういう学びを作るんだという、そういう意識を持っていただければ、そんなふうに思っております。</p> <p>この後、論点整理それから今日の協議にかかわって事務局から説明させていただきますけれども、過去3回のこの委員会での議論を集約する中で、ますます少子化が進んでいく、これは避けられないわけです。今年度末に川島小学校が閉校して統合されていきます。残りが西小学校、東小学校、南小学校の3校になるわけですが、このままずっといくということは、比較的早い段階で先ほど言った三つが達成できなくなってしまう、そういうことになります。つまり、現状維持では厳しい、駄目だと、そういうことになってこの委員会が立ち上がっていることを改めて認識をしていただければなど、そんなふうに思っております。これからの時代にふさわしい辰野町の学校としては、現在の学校を集約して新たな学びの場を作る。でもこの学校は子どもたちにとって明日につながる、そういう新しい学校なんだという意識を持って議論していただければありがたいな、そんなふうに思っております。</p> <p>よろしくお願ひしたいと思います。お世話になります。</p>
<p>委 員 長</p>	<p>3. 委員長挨拶</p> <p>本日はあり方検討委員会第4回目ということになります。</p> <p>先ほどもお話ありましたように、前回、ワークショップでこれからの時代にふさわしい辰野町の学校のあり方というのをテーマに、四つの着眼点をもとに三つのグループに分かれての討議を行いました。委員の皆さん同士自由に意見を出し合っていたきまして、この後事務局より討議された内容についてまとめたものを、また、本日そしてこれからの討議の進め方について提案があるかと思しますので、それについては控えさせてもらいますが、第3回の委員会の会議録が資料として出されて、もうお手元にいつているかと思うんですけども、委員の皆さんの学校や子どもたちに寄せる非常に多様な思いがまとめられております。</p> <p>会議録に記載されていますように、私の方から前回の委員会の挨拶の中でも皆さんにお話をしたわけですが、先ほども教育長さんおっしゃったように、検討委員会の設置要項にある目的といいますかね、こういうふうな方向で提言をという、そんな検討事項に対する中身について何回か私も触れて話をしてきました。それで前回の討議について、そしてまた今後の進め方について、また本日の討議にかかわってくると思しますので、ここで少し長くなりますけれども時間をいただいて先に話をしたいと思いますので、よろしくお願ひします。</p> <p>繰り返しになりますけれども、この委員会の役割については、設置要項第1条にあるように、将来を展望した学校の適正規模、適正配置、学校のあり方を研究検討する。それをもとに、少子化の進展に対応した新たな学校についてということで、具体的には、小中学校の適正規模、適正配置及び学校制度、通学区あるいは学校のあり方に関わる討議をすると、そういう内容でありました。例えば、これから10年後の最終的な新しい学校の姿や形、あるいは学習内容などを委員会また事務局と</p>

ともにイメージを共有して、今後の取組の見通しを立てることになっているのではないかと思います。児童数や教育環境の変化に応じた段階的な取り組みの計画を立ててですね、その時期とか、あるいは判断していく目安などにも触れながら、提言につなげていくことになるのではないかと思います。

前回の討議の論点整理や会議録などからも、多くの皆さんが少子化の進展に対応した新しい学校の姿として、学校を集約、統合していくのがよいという意見が多く出されておりました。この方向で討議を深めていくことにしてもですね、皆さんのご意見にもあるように、いろんな課題の克服についていろいろ話し合う必要もあります。論点整理の中でも非常に多くのご意見、皆さんのお手元に送られたと思うんですけども、いろんなご意見がありますけれども、今後ですね、集約された学校を実現していく過程で、あるいはその学校を実現したところでですね、いろいろ出された問題についても、やはりこれは検討していく必要があるのではないかと思います。

また、論点整理の中のご意見にもありましたように、検討事項の中に学校制度という言葉もありました。これは教育課程の小学校と中学校の間に区切りがある、いわゆる従来の6・3制の学校、それから小学校と中学校の区切りのない義務教育を一貫して行う新たな学校の仕組みとして、成長段階とか学習内容などに応じて柔軟に学制を変更できるっていう義務教育学校、こういうようなこともですね、今後話し合っていく中で、実際に論点整理の中でも具体的にこの言葉は出てきておりますので、この辺もきつとかかわってくるんじゃないかなと思います。

それで以前中川村の小中一貫校から義務教育学校にという話をちょっと前に紹介したことがあるんですが、先日の9月14日付の信毎にですね、「小中学校の9年間一貫で学ぶ義務教育学校、県内設置続々」という見出しで、一面にわたって大きく取り上げられておりましたので、きつご覧になった方も多いかと思います。中山間地域での義務教育学校への移行を目指すこと、それから特色を出して地元の学校を存在させる意図が大きいと書いてありました。現時点で県内で公立で5校あるそうですが、また資料等を用意するなりして内容を共有していきたいなというふうに思っております。周りの市町村をちょっと見ますと、お隣の岡谷市の川岸地区ではですね、保育園を併設した義務教育学校を2027年に開設を計画している、そういうことが載っています。義務教育学校は今後増加が加速していくのかなというふうに思います。諏訪市では、中洲地区の四賀小と中洲小を統合して、諏訪南中学校と施設一体型小中一貫校、そういう基本構想を策定する予定があると、こういうことが報道されておりました。また、茅野市永明小中学校では既にこの4月に開校した小中一体型の校舎で、中身は1・2階が小学校、3階に中学校の教室が配置されてまして、交流、共有のゾーンを中心とした八の字型の校舎で機能的にできていると、そんなことをいっている記事も載っておりました。そういうことで今続々とですね、集約もそうなんですけど、少子化の進展に対応してですね、各市町村が独自の、地域にあったその方向で話がどんどん進んでいる中での辰野町ってことになるわけです。

	<p>辰野町児童生徒の見通しとして、第 2 回の検討委員会のために配布された資料 No. 3 というのがあったんですけども、ちょっとまた後からご覧いただいても結構なんですけど、最終的に子どもの数が出ている令和 16 年のところですね、ちょうど 10 年後になりますけれども、町内全体で 6 年生が 68 人なんです。町全体の 6 年生の数が 68 人、今の基準でいきますと町全体で 2 学級がやっどできるという、そんな感じの人数であります。5 年生が 76 人、4 年生以降についてはデータが載ってませんでしたのでこれから学校あるいは地域にいろんな変動はあるにしても、4 年生以下の子どもの数というのは、そう増えることは期待できそうにないです。具体的には減少していくんじゃないかっていう、そういうふうな状況だと思います。</p> <p>少子化の進展に対応した新たな学校作りに向けてですね、学校の集約や、それから先ほどお話した学校制度などについても討議を深めるとともに、先ほどもお話ししましたけれども児童数や教育環境の変化に応じた段階的な取組の計画など、その時期とか判断して、そんなことにも触れながら話が進んでいくんじゃないかと思うんですね。</p> <p>今日のこの話し合いが次回第 5 回そして 6 回とつながっていく。この後の討議もそうなんですけれども、それがつながっていくような、そんな討議が深まればいいなと思います。この後討議があるわけなんですけど活発にご意見をお出しただいて、次回以降の方向づけ、また見通しができるようなそんな話し合いにしていだければと思います。</p> <p>この後すぐにまたグループ討議が始まりますけれどもまたよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
委員 長	<p>4. 協議</p> <p>(1) 前回までの経過と協議の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局説明をお願いします。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・会議資料に基づき事務局説明。
委員 長	<p>4. 協議</p> <p>(2) 「前回のワークショップの論点整理」をもとにグループ討議</p> <p>テーマ：「これからの時代にふさわしい辰野町の学校のあり方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の進展に対応した新たな学校 ～学校を集約するにあたってのメリット、課題等～ <p>各グループの検討内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各記録係は発表をお願いします。
	<p>A グループよろしくお願ひいたします。グループでいろいろ出たご意見を発表させていただきます。</p> <p>まず集約のメリットについてご意見が出されました。大きな学校で切磋琢磨した方が社会で生きていけるようになるという意見ですとか、あと人口の見通しからいうと集約せざるを得なくなっていくのではないかという意見が出されました。地域に馴染んできた子どもたちがやっぱり地元に戻ってくる人が多いというようなご意見も出されました。あと、ちょっと論点がずれるかもということだったんです</p>

<p>A グループ 記録係</p>	<p>が、能登の地震を反映しますと、天竜川で分断されて、ハザードマップ等のこともあるので、集約を考えると安全なところが安心だというご意見も出ました。あといろいろな事例の視察を考えていらっしゃる場合もありまして、視察してきたものを持ち帰って意見を出したり材料にできるので、実際に見てくるのはすごくいいことだというご意見もありました。あと少子化から見ると集約がどうしても必要性があるということで、地区や歴史でまとめていくのは難しいと思うが、もうそういった時期に来ているのではないかとということ、ある程度思い切ったやり方をしないと新しいものは生まれれないのではないかとのご意見もありました。</p> <p>あと進め方なんですけど、こういった丁寧にご意見を聞きながらやっていく方法も一つの方法でないかということです。あと、ある程度ゴールをどういうふうにしていくかっていうのを決めた方がいろいろ意見が出やすくなるのではないかとのご意見も出ました。</p> <p>あと、大きい学校だと単級を避けられるということで、例えば毎年クラス替えをやった方がよいのではというご意見が出ました。ちょっと心配なのは地域性がどうしても失われてしまうのではないかとのご意見もありました。あと、地区ごとではなく町が一つの地域という捉え方に今後変わっていくのではないかとのご意見もありました。あと、集約していくにしても地域との連携を大切に伝統はなくさないようにというご意見がありました。</p> <p>あと学校のあり方で、義務教育学校という話も出たんですが、先生の確保であったり先生の資格の関係でハードルが出てくると思うので、そちらは次回また詳しく話し合っていければということでした。集約したところで、中学校から他の中学校に行けるのかどうかっていう、それがまだはっきりとした見通しが不明ということなんですけど、例えば清陵中に行けるのかという話が出ました。</p> <p>まとめ的なところなんですけど、早く方向性を考えた方が、ゴールを決めた方が、今後の進め方がよいのではないかとのご意見が出ました。</p> <p>主だったところですが、以上です。</p>
<p>B グループ 記録係</p>	<p>それではBグループですが、お願いいたします。</p> <p>まず、学校を集約するにあたってのメリットから話が始まりました。メリットとしては、多くの人との関わりが生まれるっていうようなこと、それからたくさんの方の考えに触れることができる、先生の数も多く確保できる、そのようなことから始まりました。ただ辰野町の学校として、これからどのように考えていくのか、そのあり方も考えていかなければいけないのではないかっていうこと。そうすると今度は他の地域からも子どもたちが集まってくる、そんな学校を目指していきたいっていうようなことが出されました。それから集約っていうことに関しまして、集約の方法、どのように集約していくかということにかかわってメリットデメリットが出てくるということ。それから、逆に言えば残すことによって地域とのかかわりも生まれてくるのではないかっていうご意見もありました。そしてまたメリットですけれども、学級にうまく溶け込めない子が他の学級の子と混ざることによってリセットできるっていうようなことですか、子どもの序列、固定化された序列の解消も可</p>

	<p>能であるのではないか、そのようなご意見が出されました。</p> <p>次に具体的な形としまして、小中一貫校、それから義務教育学校、それぞれどんなイメージかっていう、そういうところにも話が行きました。小中一貫校はこんな学校である、義務教育学校はこのような学校であるってことをご存知の方に出していただきながら、小中一貫校、義務教育学校それぞれのメリット、デメリットについても話が進みました。</p> <p>学校を集約するにあたってのデメリットというようなことになると、一つにした場合の通学をどうしていったらいいのか、それから、それぞれの学校を取り巻く地域の感情、そういうようなことも出ました。</p> <p>また、具体的な形として、例えば低学年は地域の学校に通って高学年は一つそして中学へというような形、それから保育園からどうしていくかっていうことも一緒に考えていくことも必要ではないかというご意見もありました。</p> <p>それから今後考えていくに当たっては、やはりどうしてもコストの面、これは避けて通ることはできないのではないか。集約に当たって具体的にコストがどういうふうになっていくのかっていう、そこを考えていかなければ前に進んでいけないのではないか、そういうことも出されました。</p> <p>最後に、コストの面、それから学校制度・システムの面、これと教育内容、学びの内容、これについては分けて考えていかないと前に進まないのではないか。また、論点整理の中にあります不登校・いじめをどうしていくかっていうことではなくて、不登校・いじめのない学校をこそ目指していきたい、そういう新たな学校を考えていきたい。そうすると、他の市町村からも子どもが集まってくる辰野町の新しい学校、こういうところへつながっていくのではないかっていうご意見が出されました。</p> <p>以上です。</p>
Cグループ 記録係	<p>Cグループの発表させていただきます</p> <p>学校を集約するっていうことを中心に皆さんから意見をいただきました。</p> <p>まず、集約によって単級よりも複数あると、展開されていくことにいろんな幅が生まれる、人間関係が広がる、刺激が増える、というようなことがあり、それが豊かな学校生活につながるという意見がありました。大きい学校では、小さいクラスを望む子にも小さい単位で対応することも可能ではないか、ということもありました。</p> <p>建物の維持について、今の学校規模ではお金がかかるので、今後子どもも大人も少なくなる中では維持の面でも小さくする、今の規模で維持するのはなかなか難しいんじゃないかなという意見も出ました。</p> <p>それから小中一貫校の話も出ましたが、幼保小中というような形も考えられるのではないか。小さい子の面倒を見ることが小中の子どもにとっても良い経験になるし、先生たちにとってもいろんな子供たちを知ることは良い経験になる。それから小中では認知能力を育む、幼稚園保育園のときには非認知能力を育むっていうことが言われているので、幼稚園保育園のときの教育の部分に力を入れることが、その</p>

	<p>まま小中につながってくるし、社会貢献できる人間を作ることに影響があるんじゃないかっていう意見も出ました。</p> <p>それから B グループと同じように小中一貫校ですとか、義務教育学校ってどういうものかっていうことを皆さんで共通認識することもできました。</p> <p>ただ課題もありまして、やはり一つにまとめると歩いて通学することがなかなか難しくなるということが予想されますので、運動量が減ってしまったり道草ができないため人によっては友だち関係の構築が課題になったり、歩いて帰ることで四季を感じたりするようなことがあるがそれができなくなるといったようなことが、デメリットといたしますか、課題に感じるという意見もありました。</p> <p>学校が一つになったときも、逃げ道といたしますか、何かトラブルがあったときについては町村単位を超えた受け入れなんかも可能ではあるというようなお話もお伺いできましたのでそのような解決方法もあるという話が出ました。</p> <p>それからどんな形であってもメリットデメリットがあるので、その都度解決していくしかないかなというような意見も出たところで今回は時間となりました。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>また会議録あるいはまとめていただいたものを担当の方で精査していただいて、次の第 5 回目の方向を事務局の方と打ち合わせをしていきたいと思えます。</p> <p>このグループの方でも、どうも同じことの繰り返しみたいなこともあるので、ぜひ何か方向をしっかりと見定めてってという要望が強くなりました。そんなことでちょっとまた記録を見させていただいて、事務局と打ち合わせをしながら、方向をしっかりと出していければということをお思います。</p>
事務局	<p>5. その他</p> <p>次回第 5 回の委員会は、11 月下旬に開催の予定です。</p>
副委員長	<p>6. 閉会</p> <p>それでは第 4 回のあり方検討委員会を終わります。お疲れ様でした。</p>